

プロジェクトデザイン Project Designing

国際教養大学
森園浩一

今日の内容

- I. プロジェクト・コンセプトとは
 - ・ プロジェクトを形作る骨組みを考える
- II. プロジェクト・サイクルとは
 - ・ プロジェクト形成の流れを把握する
- III. プロジェクト・デザイン
 - ・ 先ず手始めに: プロブレム・ツリー
 - ・ そして、プロジェクトへ
- IV. 演習/グループコンペとまとめ

- I. プロジェクト・コンセプトとは
 - プロジェクトを形作る骨組みを考える

(1) 演習

課題1: 「バーベキュー・パーティー」 を計画する

現在、BBQパーティーの開催を計画しているとします。
必要な情報を盛り込んで、その計画書を作ってみてください。

(2) プロジェクト・コンセプト

① OMITT ルール

プロジェクトは、次の5項目の情報から構成される。

- ① “O”: Objective: 目的
- ② “M”: Monetary (financial matters): 金銭的側面
- ③ “I”: Institutional ('soft' part): 組織・体制、責任分担、ルールなどソフト面
- ④ “T”: Time-frame: スケジュールなどの時間的側面
- ⑤ “T”: Technical ('hard' part): 材料・道具、機械・家具、土地・場所などのハード面

“OMITT not to be omitted”

(3) プロジェクト・コンセプト

② OMITT ルール

Objective (目的):

- > 内容: その計画の実施を通して何を達成するのか。
但し、目的には次の2つがある。
 - 短期的: 計画終了後、直ちに達成すべきこと
 - 長期的: 短期的な目的などの達成を通し、将来的に目指したい目標
- > 例1: BBQパーティー
 - 短期的: 参加メンバー同士の親睦
 - 長期的: 親睦を通して地域全体の活性と健康増進を図る

(参) 短期的目的は「アウトプット」、長期的目的は「アウトカム」、「ゴール」、「最終目標」といった別称で呼ばれることもある。

例2: 目的: 短期的と長期的

~のために、~を目指して

長期

高齢者を含めた誰もが住み慣れた地域で住み続けられるコミュニティづくり

短期

~をします。実現します。

助け合いの精神を大切に、地域の独居高齢者に栄養バランスの良い安全な食品を届け、それを手渡しすること

出典: 岸本幸子「ミッション・ベースド・マネージメント」を基に作成

(4) プロジェクト・コンセプト

③ OMITT ルール

Monetary(金銭的側面):

> 費用 = 見積ったコスト:

計画の実施で支払いの生じる対象(財・サービス)の全てを計上すること(できれば項目ごと)。

> 資金 = 金融・資金手当:

見積の費用に対して、資金手当・金融の計画。自己資金、他からの寄付、借入れなど。

(参) 計画段階では資金手当が確定していないことが多い。

(5) プロジェクト・コンセプト

④ OMITT ルール

Institutional(組織・体制、責任分担、ルールなど):

> プロジェクト実施のための様々なアレンジや決め事。

- 組織・体制: どんな体制やグループを作って実施するか、誰が班長さんか、など。
- 役割・責任: 各班や各人がどんな役割と責任を持って実施するか、など。
- その他: 各種取り決めやルール

(参) BBパーティに参加するメンバーの各役割を考えることから、実施体制のヒントがうまれることも。また、それぞれの人が誰に途中の経過報告等をするかを考えると、組織の構造を作りやすいことも。

(6) プロジェクト・コンセプト

⑤ OMITT ルール

Time-frame(時間的側面):

> プロジェクトの実施期間:

実施期間とは、イベントの開催期間、事業の建設期間などの行事実施の期間だけを指すのではない。

> 例:「プロジェクト・BBQパーティ」:

支出を伴う事前の活動(ex.食材買出し)や事後に必要な活動(ex.片付け)の期間も含む必要があることも。

> 従って、プロジェクトの開始と終了を決め、事前事後の活動についてもOMITTの必要事項を検討し、プロジェクト全体の中に入れておくことが重要。

(7) プロジェクト・コンセプト

⑥ OMITT ルール

Technical(ハード関係、調達する資機材・役務面):

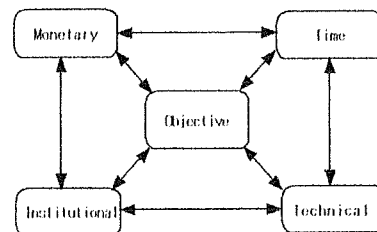
> 必要な資機材、サービスのあらゆる物的関係・量や規模に係わること

> 例:「プロジェクト・BBQパーティ」:

羊肉5キロ、紙コップ50個、椅子20脚、買出し用の車2台、パーティ会場スペース、公園駐車場、後片付けよう掃除具3セット、etc

(8) プロジェクト・コンセプト

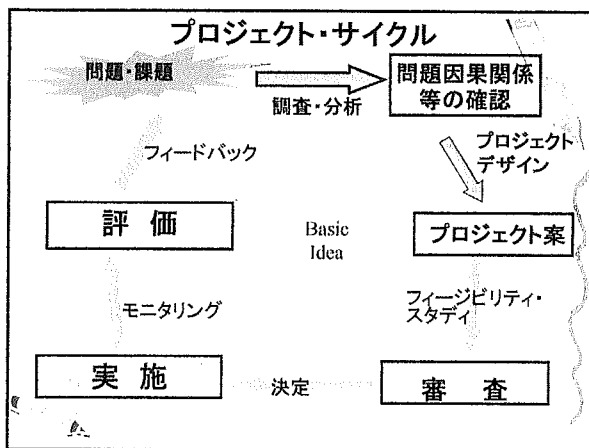
⑦ OMITT ルール



・ここでのポイントは？

- 計画、あるいはプロジェクトには、必ずOMITTの5つの項目が含まれてなければならない。
- コンセプト構築には通常、5つのうちO(目的)かM(予算)が先行することが多い。

II. プロジェクト・サイクルとは プロジェクト形成の流れを把握する



・ここでのポイントは？

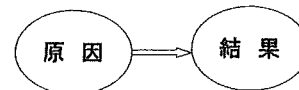
- ここでのプロジェクトデザインは、問題・課題の**事実に基づいて**、それらを解決するために設計される計画である。
- ここでの計画の出来具合が、その後のプロセスに大きく影響する。
- 同時に、サイクル上、修復の機会もあるため、トライ・アンド・エラーを恐れてはいけない。

III. プロジェクト・デザイン

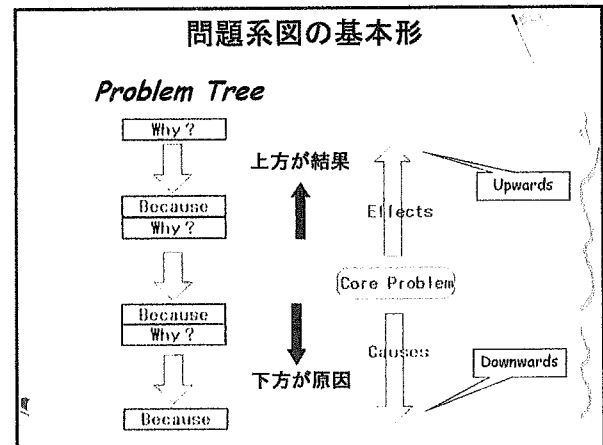
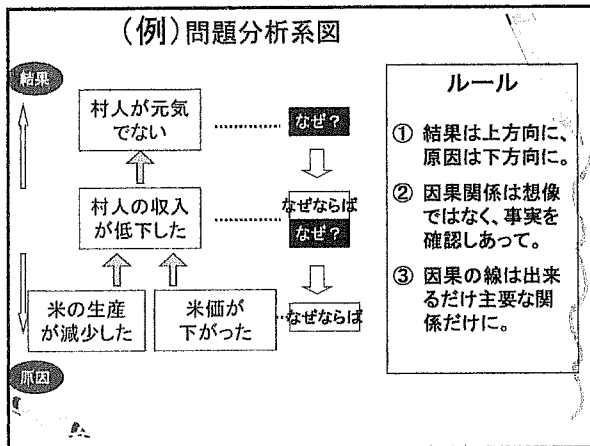
まずは問題の発見から、解決のための系口を探ります。
一つの方法として「プロブレム・ツリー(問題分析系図)」を利用します。

プロブレムツリー 問題分析系図とは

- 現状の問題を把握し、問題の原因と結果を関連性を図示したもの。



- ただし、図示の仕方に、幾つかのルールがある。



プロブレム・ツリー
(問題分析系図)
を実際に作ってみよう

課題2
(別途配布の資料)

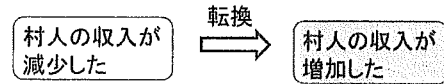
- (1)作業の手順:問題系図
1. 各人がそれぞれ問題点と思うことを列挙する。その際、出来るだけ体言止めではなく、短い文章で。
 2. 問題点を持ち寄り、グループで検討し、共通の問題点を確定する。
 3. 確定した問題点は1つずつカードに書き出すこと(複数問題は問題ごとに別のカード)。

4. 書き出した各カードを問題系図の作成ルールに従って、配置する。
各問題の理由を検討し(why)、原因と考えられる事項(because)を問題の中から探し、連結する(但し、最も関連性の高いものとの連結のみへ限定する方が良い)。連結の際、原因となる事柄は図表の下へ、さらにその原因はその下へと配置する。
5. 完成した問題系図を全員で議論・確認し、合意形成を図る。

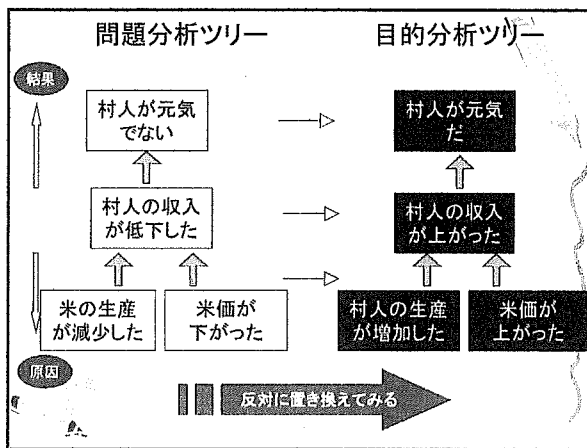
次のステップとして
オブジェクティブ・ツリー
(目的分析系図)
を作る

作業の手順(1):目的系図

1. 問題系図の各問題を、反対表現へ転換してみる。



2. 転換後の関係性にロジック的に問題なければ、問題系図→目的系図の作業は一通り合格であると同時に、最初の問題系図の関係性はロジック上、問題ないことを確認できる。



作業の手順(2):中心課題とプロジェクトの構成

1. 問題系図(目的系図)完成
2. 問題系図の中心的位置にくる課題はないか(→中心課題)。あれば、その課題を解決すると、それより上部に位置する結果の課題解決・目的が同時に達成。
3. 場合により、中心課題の下部に位置する課題の幾つかを単独、あるいはグループで取り上げて、部分的解決を図ることも可能(コンポーネントを構成する)→ プロジェクト

V. 演習/グループコンペとまとめ

目的分析ツリーの意義

この分析ツリー(オブジェクティブ・ツリー)は次のことに資する。

- (i) 問題分析ツリーの論理構成が正しいかどうかの確認
- (ii) 解決のためのシナリオ、または仮説を立てること。
- (iii) このシナリオに基づいて、プロジェクトが設計される。

・ここでのポイントは？

- 事実に基づき、問題・課題の因果関係を明らかにする。
- 関係者がその因果関係に合意することが重要。
- 資金・マンパワー・時間的制約などから、どこの活動グループを実施するか、どういった順番で実施するかを同様に合意する。

参考(おまけ)

実際のプロジェクト形成に際して、配慮すべき事柄

- 1) プロジェクト実施中のモニタリングや終了時の評価の仕組みを、予め組み込んでおくこと
(参考例:PCM手法)
- 2) また、次の要素も重要である。
 - 継続性・持続可能性
(環境配慮、財務、組織作り、技術等)
 - 女性の役割
 - 利害関係者・グループの確認作業と対話・参加方法